

令和 7 年 9 月 8 日開催 第 10 回仙台市交通事業経営検討委員会開催レポート

1 開催概要

日 時: 令和 7 年 9 月 8 日(月) 16:30~18:45

場 所: 仙台市交通局本庁舎 7 階 研修室

出席委員: 鈴木高宏委員長、長江剛志委員(オンライン)、大曾根 学委員、
榊原 進委員、鈴木文彦委員、成田由加里委員 福嶋 路委員 [7 名]



2 議事内容について

(1)仙台市交通事業経営計画 2026-2035(令和 8~17 年度)素案について

資料1、資料2により事務局説明

【委員からのご意見 抜粋】

(第 2 章 これまでの取組みと評価 について)

・交通政策との連携の成果として、八木山の宮城交通とのダイヤ調整の取組み(八木山ライン)を掲載してはどうか。

(第 3 章 仙台市交通事業を取り巻く環境と課題 について)

・P31 バス営業係数について、営業係数の分布図を作成すると、路線の現状が見えてくるのではないかな。

(第 4 章 経営計画の全体像と基本方針、第 5 章 事業計画 について)

・他社では窓口閉鎖がコストカットとして行われているが、人の温かみがあるサービスは今も求められるものだと思う。仙台市では一定残すことを検討してほしいし、そのために必要な値上げは、市民理解を得られるのでは。

・戦略Ⅰ「安全・安心の推進」について。公共交通の「安心」は安全性による安心だけではなく、きちんと定時で走り、利用ができる「安心」もあると思う。その意味で戦略Ⅱのサービスも「安心」の取組みにつながるのではないかな。

・事故防止について。近年、バスの車内人身事故(転倒等)の原因は、自転車の飛び出しが多い。バス事業者として、自転車利用者に安全な走行を呼びかける取組みも必要なのではないかな。

・次期計画の数値目標等について、まちづくりへの貢献度は交流人口の増加など、交通局で集計する指標ではない数字を使用してはどうか。また、お客様ニーズに即していたかはアンケート結果を指標にしてはどうか。

・地下鉄は乗車人員が伸びているにもかかわらず、広告料収入が伸び悩んでいる。紙媒体の車内広告は需要が少ないのであれば、首都圏の鉄道ですでに普及している動画広告が掲出可能なデジタルサイネージを検討すべきでは。

・「混雑していない」ことを逆手にとって、それをメリットと感じる方に情報を打ち出してはどうか。SNS 等で混雑情報を提供したり、混雑を避けることができるおすすめコースを発信したりすると良いのではないかな。

・仙台市の小学校は、秋休みがあることも特徴なので、ハッピーファミリーライドは秋休みもやってほしい。

・方言を用いたアナウンスなども、郷土色のアピールとして市バス・地下鉄の魅力につながるのではないかな。

(2)令和 6 年度決算を踏まえた市バス・地下鉄収支見通しについて

資料 3 により事務局説明

【委員からのご意見 抜粋】

・今回の経営計画は、特に市バスについて、経常収支の均衡を財政目標に掲げ、令和 8 年 10 月の運賃改定に加え、今後も運賃体系の見直しを検討している。さらに、今後の路線のあり方も検討する。まさに、大きな過渡期を迎える計画。交通局としての「覚悟」のようなものを、計画に掲げるべきではないかな。

・国の指針により 10 年間の財政収支計画を作成するということだが、10 年というのは非常に長い期間なので、様々な変動要素が想定される。リスク要因別の収支見通しを、何パターンか提示するべきではないかな。